

いのちのリレー

広島県立広島中央特別支援学校

小学部第3学年 坊田 惣祐

(原文点字のため墨字訳)

いのちのリレー

小学部 3年 ぼう田 そうすけ

ぼくたちの学校では、生き物をたくさんそだてています。それは、ぼくたちは目が見えないからさわってかんさつしたり、えさをあげたりして生き物の様子を発見するためです。そだてるときは、つかまえたりもらったりしています。

ぼくは、2年生のころカブトムシを育てていました。カブトムシがたまごをうんで死んでしまいました。そのたまごが、幼虫になりました。3年生になってから幼虫がさなぎになるころ、ぼくはいのちのリレーというものに気付きました。いのちのリレーとは、たまご、幼虫、さなぎ成虫の次にまた、成虫がたまごをうんでくりかえすことです。

ぼくは、それに気付いたとき、

「すごい くりかえしてる。」

と、びっくりしました。発見できたのでうれしかったです。理科の時間にカイコガを育てました。育てていたら、カイコガもいのちのリレーをするんだとわかりました。

夏休みには、自由けんきゅうでセミのけんきゅうをしました。あぶらぜみの成虫は、さわってかんさつしました。すると、せなかがかたかったです。目は玉のようになっていました。ここで、ぼくは、セミが、いのちのリレーをするのかが気になりました。そこで、点字のこん虫図かんで調べると、たまごから幼虫、さなぎ、成虫になると書いてありました。本当にそうなるか、かうことができたなら調べてみたいです。

ぼくは、わたとピーマンもうえています。すると、花がさいてみになって種ができました。この種をうえると花がさいたり、みがなったりすると思います。ここでも、いのちのリレーがありました。

このようにいのちのリレーが続けば、どんどんこん虫や人間や植物や動物がいっぱいになります。そうなったら、うれしいです。これからも

ぼくは、いのちのリレーが続いてほしいので、生き物をやさしくお世話して育てていきます。そのためにいっぱいさわって勉強して発見をしたいです。

〈指導者の言葉〉

本校の視覚障害児童は、全ての学習において、実体験をする、実物や模型を触るという学習を大切にしています。

第3学年の理科の時間にも、植物や昆虫をたくさん育てました。児童は、日々積極的に関わり、優しく触察して大切に育てていました。その体験によって、植物や昆虫の生育を比較する場面が多くあり、命がつながっている、命がリレーしているということに気付きました。児童にとっては、そのことは大発見であり、学級の友だちにも話してみんなで大興奮しました。

その後、調べたいという気持ちが高まり、夏休みにも様々な昆虫や植物の観察をしました。学校の図書室にあった点字の昆虫図鑑を持ち帰り、セミの命のリレーについても調べました。実際に、セミを触った感動を歌で表現することにも取り組みました。また、それらのことを作文にまとめることにも挑戦しました。このように学習をどんどんつなげています。

実体験から発見して感動が生まれ、次の疑問が出てくる、それをまた調べたいと思い、次の活動が生まれる、それを文章として表現するという繰り返しを大切に指導しています。